

# お 知 ら せ

件 名	東日本大震災に関する東北地方への支援について
-----	------------------------

## お知らせ内容

北海道開発局では、東日本大震災による被災地への支援として、職員や災害対策用機械等を東北地方に派遣しています。

現在の派遣状況について、別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

なお、今後の派遣状況については、随時、下記ホームページに掲載いたしますので、あわせてお知らせいたします。

(ホームページURL)

[http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/saigaikanren/tohoku\\_saigaikanren.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/saigaikanren/tohoku_saigaikanren.html)

問	所 属	役 職 名	氏 名	電 話 番 号
合	北海道開発局 防災課	防災課長	高橋 渡	709-2311 内線5448
せ	北海道開発局 防災課	防災課長補佐	横田 康弘	709-2311 内線5944
先				

## 東北地方への支援状況

H23. 4. 6  
北海道開発局

北海道開発局では、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生と太平洋沿岸を中心とした大津波警報の発表により、北海道内における被災状況の把握と応急対策を実施してきたところです。

3月14日から、東日本大震災により甚大な被害を受けた東北地方の災害復旧を支援するため、東北地方整備局を通じた自治体からの要請に応え、通信の途絶えた自治体の通信回線を確保するため衛星通信車等を派遣するとともに、待機支援車等の災害対策車両を派遣するほか、河川・漁港施設の被災状況調査のため職員を派遣するなど、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の活動を中心に、現地における災害復旧活動を支援しています。

また、北海道開発局が所有する広域防災フロートを活用し、大船渡港、相馬港へ救援物資を搬送するとともに、このフロートは、今後、船舶の臨時係留施設等として活用される予定です。

4月6日現在では、災害対策車両等11台が派遣されており、宮城県及び岩手県内の通信・電気施設の点検のため3名の職員が活動中であり、本日、宮城県及び岩手県内の漁港施設の調査のため2名の職員が現地に派遣されたところです。

北海道開発局では今後も現地の要請に応え、職員や資機材を即座に派遣できる体制を整え東北地方の復旧支援を行って参ります。

### ※緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）について

大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的として、平成20年5月、国土交通省に創設されました。

北海道開発局は、これまで、岩手・宮城内陸地震（H20.6）や岩手県沿岸北部の地震（H20.7）において隊員を派遣しており、東日本大震災においても派遣し支援活動を実施しています。

帰還

### ■職員の派遣状況

No.	派遣期間	派遣先	用務	人数	備考
1	3.14～3.18	仙台市、東北地整	被災状況把握、支援内容打ち合わせ	4	TEC-FORCE
2	3.15～3.24	宮城県東松島市役所	災害対策本部の通信回線の確保	3	〃
3	3.16～3.23	仙台市、東北地整	被災状況把握、支援内容打ち合わせ	4	〃
4	3.20～3.28	北上川下流河川事務所	河川における樋門・樋管等の調査	4	〃
5	3.20～3.28	〃	〃	4	〃
6	3.20～3.28	〃	〃	4	〃
7	3.20～3.28	〃	〃	4	〃
8	3.20～3.28	〃	〃	3	〃

9	3.20~3.27	仙台西国道維持出張所	対策本部車、待機支援車の運用	1	〃
10	3.22~3.24	岩手県大船渡港	救護物資支援	2	〃
11	3.22~3.31	宮城県東松島市役所	災害対策本部の通信回線の確保	3	〃
12	3.23~3.30	福島県相馬港	広域防災フロート稼働支援	4	〃
13	3.25~3.31	仙台西国道維持出張所	対策本部車、待機支援車の運用	2	〃
14	3.26~3.31	宮城県石巻漁港他	石巻漁港他の被災状況調査	1	
15	3.28~4.1	福島県相馬港	広域防災フロート稼働支援	4	TEC-FORCE
16	3.29~4.7	岩手県田野畑村	災害対策本部の通信回線の確保	3	〃
17	3.29~3.30	福島県相馬港	広域防災フロート稼働支援	3	〃
18	3.31~4.5	福島県相馬港	広域防災フロート稼働支援	3	〃
19	4.5~4.14	岩手県田野畑村	災害対策本部の通信回線の確保	3	〃
20	4.6~4.15	岩手県釜石漁港他	釜石漁港他の被災状況把握	1	
21	4.6~4.15	宮城県塩釜漁港他	塩釜漁港他の被災状況把握	1	
	21	【班：累計】		61	名
	4	【班：現在】		8	名

## ■災害対策車両等

派遣期間	車両等名称	派遣元	派遣先	台数
3.15~	衛星通信車	函館開発建設部	岩手河川国道事務所一関出張所	1
3.15~	Ku-SAT	〃	岩手県田野畑村	1
3.20~	災害対策本部車	札幌開発建設部	仙台西国道維持出張所	1
3.20~	待機支援車	〃	岩手県大槌町	1
3.23~	災害対策本部車	帯広開発建設部	福島県相馬港（相馬市）	1
3.23~	待機支援車	〃	〃	1
3.23~	照明車	札幌開発建設部	〃	1
3.23~	照明車	室蘭開発建設部	〃	1
3.22~	広域防災フロート	〃	〃	1
3.20~3.28	河川パトロールカー	札幌開発建設部他	北上川下流河川事務所	2
3.20~3.28	連絡車	〃	北上川下流河川事務所他	3
3.29~3.30	連絡車	〃	福島県相馬港他	1
3.22~3.31	連絡車	〃	仙台西国道維持出張所他	2

3.22～	連絡車	〃	岩手県田野畑村他	2
			累計（台）	20
			現在（台）	11

なお、これまでの延べ派遣状況（1日の活動につき1名1班換算）は以下のとおりです。

延べ班数	130 班
延べ人数	401 名

# 北海道開発局 東北地方への支援状況

H23.4.6 現在

活動人数は延べ人数を記載しています。

## 情報通信班 (活動中)

岩手県田野畑村  
H23.3.22 ~ (3班 38人)  
電話回線が不通となっている田野畑村役場に、Ku-SAT (小型画像伝送装置) 1台を設置し、電話回線を確保。



## 現地支援班 (物資支援)

岩手県大船渡市  
H23.3.22 ~ H23.3.24 (1班 6人)  
中部地整の油回収船「清龍丸」で、生活必需品や食料など約8tの北海道開発局からの支援物資を苫小牧港から大船渡港へ輸送。



## 被災状況調査班 (河川班)

宮城県大崎市周辺  
H23.3.20 ~ H23.3.27 (5班 171人)  
鳴瀬川、吉田川、竹林川、鞍坪川、多田川の樋門等の被災状況の調査を実施。



## 情報通信班

山形県米沢市  
H23.3.29 (1班 3人)  
東北地整米沢国道維持事業所の無線機の点検を実施。



## 情報通信班 (活動中)

岩手県宮古市ほか  
H23.3.31 ~ (1班 39人)  
東北地方整備局三陸国道事務所管内の無線中継所の機器の点検を実施。



## 現地支援班 (活動中)

岩手県大槌町  
H23.3.23 ~ (1班 1人)  
大槌町へ、消防活動支援のため待機支援車を派遣。



## 広域防災フロート

岩手県大船渡港  
H23.3.24 ~ H23.3.28 (1班 24人)  
苫小牧港にて燃料等支援物資を積み込み、福島県相馬港へ輸送途中、大船渡港へ寄港し、支援物資の一部を荷揚げ。夜間の荷揚げ作業支援のため、照明車2台を派遣。



## 情報通信班

宮城県東松島市  
H23.3.16 ~ H23.3.28 (2班 42人)  
電話等の通信手段が完全に失われた東松島市役所に、衛星通信車1台を設置し、電話回線を確保。NTT回線が復旧したことから待機中。



## 広域防災フロート (活動中)

福島県相馬港  
H23.3.29 ~ (4班 48人)  
苫小牧港にて燃料等支援物資を積み込み、福島県相馬港へ輸送。港湾施設が大きな被害を受けた相馬港の作業船等の係留施設として使用予定。夜間の荷揚げ作業支援のため、照明車2台を派遣。



# 支援に行っている災害対策用機械

## 衛星通信車

衛星通信設備を車載しており、現地における通信確保及び車載カメラによる情報収集、ヘリテレ受信装置と組合せての画像配信等、発災現地における情報通信の中心となる機械です。

津波被害により通信手段が完全に失われた東松島市役所に配置され、電話は市民の安否確認にも使われました。



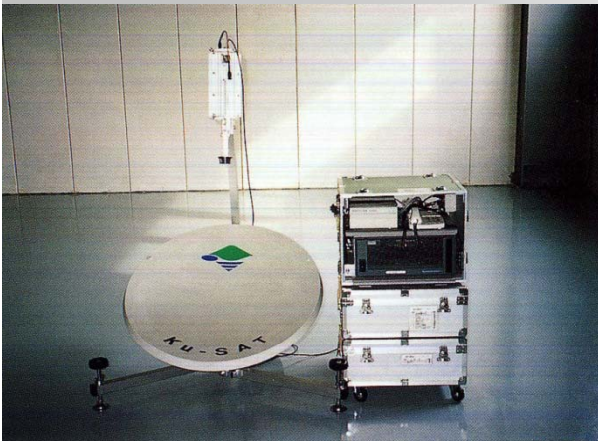
### ●機械の主要諸元

全長：5.9m  
全幅：2.0m  
全高：3.0m  
重量：5.2t

最大、画像2回線、電話3回線の通信ができます。

## Ku-SAT（衛星小型画像伝送装置）

通信衛星を利用した映像・音声・電話、FAX等の通信を行う装置であり、人力による持ち運びが可能です。当初、衛星通信車と共に東松島市に配置されましたが、東松島市の通信回線復旧に伴い、岩手県田野畑村に異動し、役場の通信を確保しています。



### ●機械の主要諸元

送信周波数 14GHz帯  
受信周波数 12GHz帯

最大、画像1回線、電話1回線の通信ができます。

## 待機支援車

長期間の災害復旧作業に携わる人員の休息場所・簡易的な宿泊施設の確保など、主に災害復旧時の後方支援や災害復旧現場における指揮命令室等の確保を目的とした災害対策用機械です。

大槌町の消防署建物が津波により完全に流失したため、消防署職員の夜間宿泊施設として使用されています。



### ●機械の主要諸元

全長：10.2m  
全幅：2.3m（拡幅時3.9m）  
全高：3.7m  
重量：10.8t

事務室・シャワー室・寝室等を備えており最大8名の宿泊が可能です。

また、車輛後部を拡幅させることにより、高い居住性を得ることができる構造となっています。

# 支援に行っている災害対策用機械

## 対策本部車

対策本部車は、災害事象発生時に速やかに出動し、現地における応急対策の指揮・連絡、情報収集及び伝達を担う現地対策本部機能を提供するための災害対策用機械です。  
相馬港に派遣された防災フロートの現地作業用に使用されています。



### ●機械の主要諸元（例）

全長 : 8.2m  
全幅 : 2.4m (拡幅時5.2m)  
全高 : 3.8m  
重量 : 10.0t

車輛後部を拡幅させることにより、現地対策本部に必要なスペースの確保が可能です。  
また、各種情報通信機器が搭載されており、場所を問わず情報収集・連絡が可能です。

## 照明車

照明車は、発動発電機・照明装置を搭載しており、夜間における照明作業、各種機械への非常用電源供給にも使用することができます。  
今回は、防災フロートの夜間作業に使用されています。



### ●機械の主要諸元

全長 : 5.9m  
全幅 : 2.2m  
全高 : 3.4m  
重量 : 7.0t  
照射高さ : 4.6~12m  
装備ランプ : 2KW×6灯



搭載している照明は約400m先でも新聞が読めるほどの明るさを確保します。

## 広域防災フロート

広域防災フロートは、代替岸壁として利用したり、被災地へ曳航し住民避難、物資輸送や臨時ヘリポート等、復旧活動等の支援施設として利用されます。  
相馬港で作業船の係留施設として使用されます。



### ●機械の主要諸元

全長 : 80 m  
全幅 : 24 m  
全高 : 4 m

上甲板は、1,000トン級貨物船等に対応。  
その他、約800トンの物資積載可能な貨物室を備えています。